

シテイルの習得要因に関する一考察

李 明華

キーワード

シテイル・習得要因・母語の影響・学習環境・かたまり

1. はじめに

日本語のアスペクト表現は外国人学習者にとって習得が困難な文法項目で、なかでもシテイル表現に関する誤用や非用の問題は大きい。その原因として母語の「負の転移」がこれまで多く指摘されているが、初級・中級・上級の各学習段階においてシテイルの誤用や非用がそれぞれ見られることから、ほかにも原因があると思われる。本稿では、調査の結果分析を通して、学習者のシテイルの習得に影響する要因について考える。

2. 先行研究

シテイルに関しては、その後の研究に大きな影響を与えた金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」に始まり、これまでに日本語学的研究、対照研究、誤用分析、習得研究などの各分野において数多くの研究がなされてきた。

従来の習得研究は、二つの観点——さまざまな言語に普遍的と言われている「アスペクト仮説」¹に基づいた研究と、シテイルのさまざまな用法の習得順序を明らかにしようとする研究——から研究が行われているが、いずれもシテイルの中心的な用法とされる「動作継続」と「結果状態」に焦点が当てられているものが多い。シテイルの派生的用法も含めた調査研究も数多く行われている²が、研究者によって「動作継続」と「結果状態」に含まれる範囲が異なるため、その結論や考察結果に疑問が持たれる場合がある。

学習者の母語が習得に与える影響に関しては、中国人や韓国人などある特定の言語を母語とする学習者だけを対象としているか、または被験者を母語別に分けずに分析しているため、それが母語の違いによるものなのか、それともそれ以外の要因によるものなのか判別が難しいものがある。また、学習環境の影響について、許（1997）は「台湾と日本という学習環境の違いがシテイルの習得に影響を与えている」としているが、調査対象者が中上級の台湾人学習者のみとなっている。

そこで本稿では、韓国人学習者（以下「韓国人」）、中国語を母語とする中国人学習者（以下「中国人」）、そして朝鮮語を母語とする朝鮮族の中国人学習者³（以下「朝鮮族」）の3者を調査対象とする。このうち中国語母語話者に関しては日本と中国でそれぞれ調査を実施した。これらの調査結果をもとに、学習者のシテイルの習得に影響する要因について考

察・分析を行う。

3. 調査の方法

3.1 本調査で扱うシテイルの用法

シテイルの各用法の名称やその境界などに関しては研究者によって差異はあるものの、「動作継続」「結果状態」「繰り返し」「経験・記録」「単なる状態」の5つの意味用法があるという点で、おおよその共通理解が得られている（藤井 1976、吉川 1976、工藤 1982、など）。本調査ではさらに文法解説書などを参考にして設問意図別に8つの項目に分類した。以下、それぞれの用法分類および用法の名称を【表1】にまとめる。

【表1】

	砂川(1986) ⁴	グループ・ジャマ シ(1998)	白川(2001)	庵・清水(2003)	本調査
1	動きの持続	継続	動作・出来事の継続	進行中	動作継続
2	結果の状態	結果	変化の結果の継続	結果残存	結果状態
3	習慣・繰り返し	繰り返し	習慣	繰り返し	習慣・繰り返し
4	経歴・記録	経験	経験・経歴	経験・記録	経験・記録
5	(結果の状態) ⁵	完了	完了	完了	完了
6	形容詞的動詞+テイル	状態	——	——	単なる状態
7	反実仮想	——	反事実	反事実	反実仮想
8	所在・職業	(繰り返し) ⁶	——	——	所属・職業

本稿では、学習者の習得要因が比較的是っきりと現れている「習慣・繰り返し」「所属・職業」「結果状態」「単なる状態」「経験・記録」「完了」「反実仮想」の7つの用法⁷を取り上げて考察・分析を行う。

3.2 調査の概要

3.2.1 調査の目的と対象者

学習者のシテイルの使用状況と習得状況を把握し、学習上の困難点や習得に影響する要因を明らかにするために、アンケート調査を実施した。

本調査は、2004年5月から9月にわたって日本と中国でそれぞれ実施した。調査対象にしたのは日本と中国で日本語を学ぶ学習者計165名である。その内訳は、日本国内在住の韓国人40名、中国人40名、中国朝鮮族10名、中国国内在住の日本語専攻の大学生⁸75名である。プレイスメントテストあるいは日本語能力試験の結果をもとにレベル分けをした。

【表2】 被験者の内訳

	日本在住 (JSL)			中国在住 (JFL)		
	韓国語話者	中国語話者	中国朝鮮族	大学 A ₁	大学 A ₂	大学 B
初中級	20 名	20 名	5 名	25 名	—	—
中上級	20 名	20 名	5 名	—	25 名	25 名

3.2.2 調査の方法

調査に使用したのは、シテイルの部分で動詞の辞書形で示して適当な形に変えてもらう形式の文法テストである。以下に例を挙げる。

- 例：1. ここ数年、この地方では台風がくるたびに山くずれが（起きる）_____。
 2. 彼は車を3台も（持つ）_____。
 3. 「田中さんは（結婚する）_____か。」「はい、子供もいます。」

調査は、個別の対面方式、あるいは大学または学校のクラス単位で一斉にテストをするという方式で行った。一部の被験者に対しては調査後にフォローアップインタビューを実施した。

3.3 項目別の結果と考察

3.3.1 「習慣、繰り返し」を表すシテイル

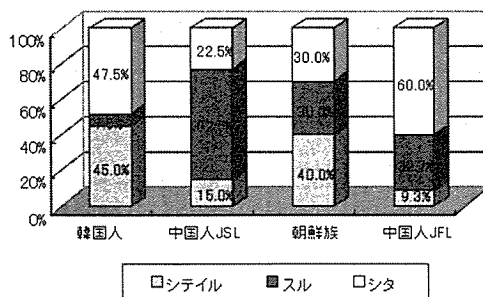
- ①ここ数年、この地方では台風がくるたびに山くずれが（起きる）起きている。
 ②私は毎日お酒を（飲む）飲んでいます。特に日本酒が大好きです。

「習慣・繰り返し」用法は、「その頃、最近、毎日、たびに」のような限られた時間の幅を意味する語や頻度を表す語に修飾されると、その意味が明示される。辞書形とテイル形のどちらも「習慣・繰り返し」を表すことができるが、辞書形は「恒常的な」習慣・繰り返し、テイル形は「一時的な」習慣・繰り返しを表す、というニュアンスの違いがあるとされている。

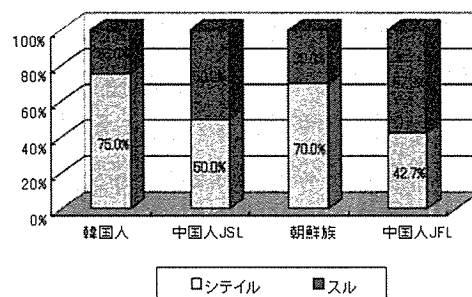
今回の調査で被験者の「習慣・繰り返し」用法のシテイルの使用は決して積極的でないことが観察できた。設問①のシテイルの使用率は21.2%（詳細は【図1】を参照）で、特に中国語話者⁹の場合、中国人JSL学習者（以下「中国人JSL」）が15%、中国人JFL学習者（以下「中国人JFL」）が9.3%と共に低い結果となっている。

中国語話者は日本語のレベルが高くなるにつれて、「起きた」（51.6%）より「起きる」（37.9%）という解答が多くなっているものの、「起きている」（10.5%）のようにもともと瞬間的な動作である「起きる」をシテイルで表現することには、やはり違和感があるようだ。

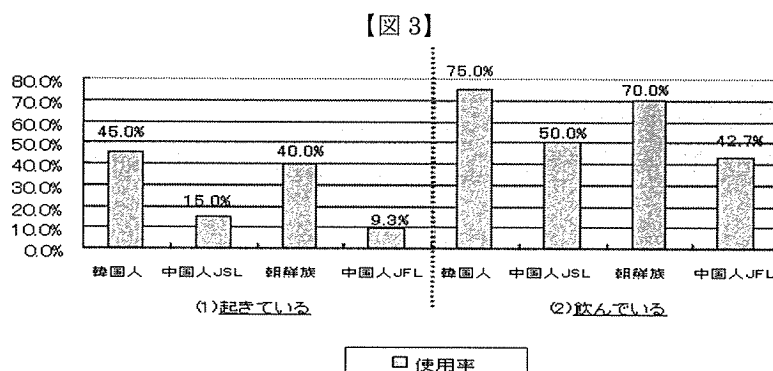
【図1】「起きている」



【図2】「飲んでいる」



設問②の場合、シテイルの使用が 53.9%（詳細は【図 2】を参照）と設問①より高いことから、学習者にとって「変化動詞+シテイル」は「動作動詞+シテイル」より難しいと判断できる（【図 3】）。



なお、朝鮮語と中国語では習慣や繰り返しを無標で表すため、母語干渉も考えられる。特に設問②の場合「飲みます」でも間違いではないが、シテイルの非用も無視できない。教師は「間違っていないから!」と見逃したりして、実は学習者の非用に気づいていないということもあると思われる。また、フォローアップインタビューで「飲みます」と解答した被験者に「飲んでいる」はどうかと聞いたところ、「飲んでいる」は間違っているという回答が返ってきた。

3.3.2 「所属・職業」を表すシテイル

③父は地方銀行の支店長を(する)している。

④A:「お仕事は何をしていらっしゃいますか。」

B:「コンピュータ関係の会社に(勤める)勤めています。」

「所属・職業」用法の正用率はいずれもかなり高く、設問③は韓国人:100%、朝鮮族:100%、中国人 JSL:90%、中国人 JFL:88%で、設問④は韓国人:100%、朝鮮族:100%、中国人 JSL:92.5%、中国人 JFL:85.3%となっている。「職業+(を)している」「勤めています」は、初級の前半で導入される学習項目で、これらは「かたまり」¹⁰として語彙的に習得していると推測される。

3.3.3 「結果状態」を表すシテイルおよび「単なる状態」を表すシテイル

⑤彼は車を3台も(持つ)持っている。

⑥今はアパートに(住む)住んでいるが、いずれは一軒家に住みたいと思っている。

⑦「橋本さんの電話番号を(知る)知っていますか。」「いいえ、(知る)知りません。」

⑧あの時のことは今でもよく(覚える)覚えている。

⑨彼はいまはあんなに(太る)太っているが、若いころは(痩せる)痩せていた。

「結果状態」を表すシテイルおよび「単なる状態」を表すシテイルの中には「持っている・住んでいる・知っている・覚えている・太っている」¹¹などのように「かたまり」と

してシテイルが使用された可能性があるので、【表3】にまとめて考察する。

【表3】 シテイルの正用率

	日本在住 (JSL)			中国在住 (JFL)		
	韓国語話者	中国語話者	中国朝鮮族	大学 A ₁	大学 A ₂	大学 B
⑤持っている	97.5%	92.5%	100%	100%	84%	76%
⑥住んでいる	100%	100%	100%	84%	88%	84%
⑦知っている	95%	90%	90%	88%	64%	76%
⑧覚えている	90%	90%	100%	60%	80%	64%
⑨太っている	87.5%	95%	100%	76%	52%	84%

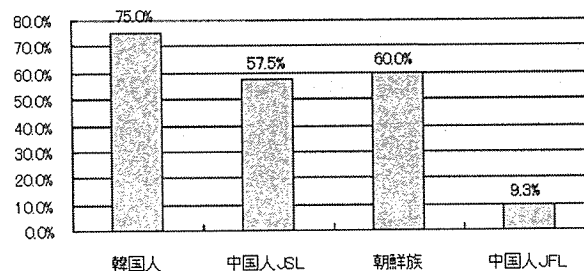
まず、日本在住学習者の「住んでいる」の正用率が中国人、韓国人、朝鮮族ともに 100% だったのに対し、中国人 JFL の平均は 85% である。日本で生活している留学生はいろいろな場面で「どこに住んでいますか」「〇〇に住んでいます」のインプットやアウトプットに接する機会が多い。反面、中国の大学生の場合は全寮制のため、住んでいる場所に関する質問と回答の機会が日本にいる留学生より少ないと思われる。学習環境が習得状況に一定の影響を与えている可能性を示唆している。

次に、「持っている」の JFL の正用率を見てみると、日本語学習歴が短く、レベルも相対的に低い大学 A₁¹² の正用率が 100% だったのに対し、学習歴も長く、レベルも高いはずの大学 A₂ と大学 B の正用率がそれぞれ 84% と 76% に留まっている。習ったばかりの文型や表現はまだ記憶に残っているが、時間が経つにつれて使っていない表現はどんどん忘れていくので、教師は意識的に既習文型や表現の復習を行う必要があるということが言えるであろう。

⑩「田中さんは(結婚する)結婚していますか。」

「はい、子供もいます。」

【図4】「結婚している」の正用率



「結婚している」は母語の干渉が起こりやすい日本語表現で、朝鮮語では「타나카씨는 결혼하였습니까?」、中国語では「田中(先生)结婚了嗎?」と、両言語とも過去形で表現する。被験者 165 名のうち「結婚しました」と誤答した被験者が 99 名で、60% にも達している。特に、中国人 JFL の正用は全 75 名のうちわずか 7 名¹³しかおらず、そのうちの 2 名が使用した教材が『みんなの日本語』であることがフォローアップインタビューでわかった。『みんなの日本語 I 教え方の手引き』(pp.164)では、「結婚しています」を使った

導入例が紹介されていて、日本語のインプットとアウトプットの環境が限られている海外の学習者にとって教材が重要な役割を果たしていることを示唆している。

3.3.4 「経験・記録」を表すシテイル

- ⑪ (事故をおこした飛行機について、これまでの記録を調べている時)

「記録によりますと、この飛行機は3年前にも一度事故を(起こす)起こしています。」

- ⑫ 「川端康成にこういうおもしろい作品もあるんですね。」

「知らなかったんですか。同じような作品を三冊も(書く)書いていますよ。」

- ⑬ 「山下教授をご紹介します。教授は古代史の権威で、これまでにすぐれた論文をたくさん(発表する)発表しています／発表していらっしやいます。」

過去に起こった出来事が現在の出来事と何らかの関わりがある場合に使うのがこの「経験・記録」用法であるが、学習者は単純に過去の出来事として捉えていることが解答例から考察できる。

設問⑪のシテイルの使用はわずか 10.3%しかいない (韓国人: 17.5%、朝鮮族: 30%、中国人 JSL: 15%、中国人 JFL: 1.3%)。フォローアップインタビューで、1)「3年前」に注目した被験者は完了の「シタ」を使用して「記録によりますと、この飛行機は3年前にも一度事故を起こしました」と答えている、2)「一度事故を起こす」に注目した被験者は「記録によりますと、この飛行機は3年前にも一度事故を起こしたことがあります」のように「～たことがある」で表現している、3)「記録によりますと」に注目した被験者は既習文型の「～によると、～だそうだ」文型を使用して「記録によりますと、この飛行機は3年前にも一度事故を起こしたそうです／起こしたことがあるそうです」と答えている、ということが判明した。

設問⑫と設問⑬は、設定時点における先行する運動の効力の現存だけでなく、語り手の心理的な要素も加わっている。設問⑫のシテイルの使用は 12.7% (韓国人: 22.5%、朝鮮族: 30%、中国人 JSL: 10%、中国人 JFL: 6.7%) で、設問⑬のシテイルの使用は 18.8% (韓国人: 30%、朝鮮族: 50%、中国人 JSL: 22.5%、中国人 JFL: 6.7%) である。学習者の解答は主に「発表した」と「書いた」に集中していて、その原因は「川端康成のおもしろい作品」も「山下教授の論文」も、現在発話している時点よりその以前に書かれたものであるという点にだけ注目していて、現在との関わりには注目していなかったためと思われる。

「経験・記録」用法は教科書ではあまり扱われていない。筆者の修士論文では「経験・記録」用法を全部で6つの設問を設けて考察してみたが、それぞれの正用率にはっきりとした関連性が見当たらなかった。特に教科書で取り上げていない文法項目に関しては学習環境の影響は決定的に大きいとは言えないと思われる。

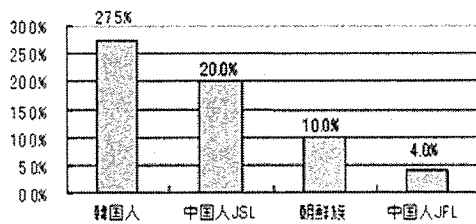
3.3.5 「完了」を表すシテイル

- ⑭ 子供が大学に入るところには、父親はもう定年退職(する)しているだろう。

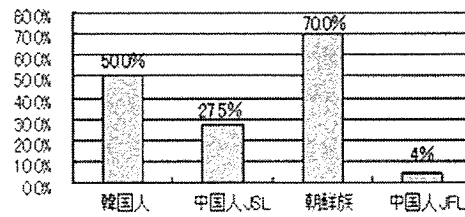
- ⑮A: 「映画に間に合いましたか」

B: 「いいえ。映画館に着いたときは、もう(始まる)始まっていた」

【図 5】「定年退職している」の正用率



【図 6】「始まっていた」の正用率



「完了」用法のシテイルの使用率は、設問⑭（【図 5】）が 13.9%（韓国人：27.5%、朝鮮族：10%、中国人 JSL：20%、中国人 JFL：4%）で、設問⑮（【図 6】）が 24.8%（韓国人：50%、朝鮮族：70%、中国人 JSL：27.5%、中国人 JFL：4%）である。一般的に「シテイタ」は「シテイル」より難しいとされているが、本調査では設問⑮の「始まっていた」のほうが設問⑭の「定年退職している」より正用率が高くなっている。

「中国語の発想では、事柄の完了そのものを述べることに重点を置いている」（張 2001：144）ので「了」が使われやすい環境になっている。朝鮮語でも「後続状態は、狭い意味での結果である」（浜之上 1992：57）ため、進行を表す「하고 있다」は使えない。実際、解答の中でも「もう定年退職した」「もう始まった」などが多く見られた。そして、フォローアップインタビューでは「もう」があるから「もう...した」文型を使ってみた、と答える被験者もいた。

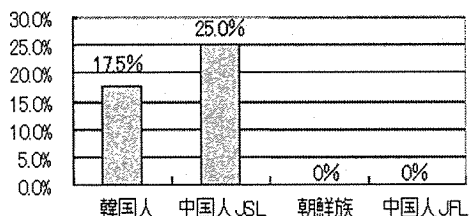
そして、「定年退職するだろう」と「ル形」で解答した朝鮮語母語話者は、韓国人が 40 名の内の 20 名、朝鮮族が 10 名の内の 5 名とたまたま半分ずついたので、フォローアップインタビューでそのわけを聞いてみたところ、一つ目は朝鮮語に訳すと「정년 퇴직할 것이다（定年退職するだろう）」と表現するから、2つ目は日本語では現在の事態を表す時はテイル形で、未来の事態を表す時にはル形を使うと教えてもらった、という説明が聞けた。

3.3.6 いわゆる「反実仮想」のシテイル

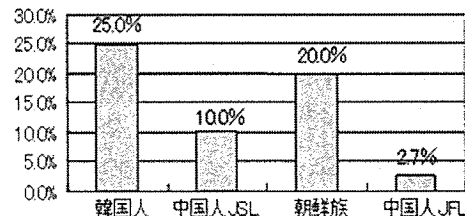
⑮もしあの飛行機に乗っていたら、みんな死ぬ死んでいたね。

⑯もしあの電車に乗れたら、いまごろはもうつくついているはずです。

【図 7】「死んでいた」の選択状況



【図 8】「ついている」の選択状況



「反実仮想」のシテイルは日本語母語話者の判断に揺れがあったので、正用率は出さずに選択状況だけを考察する。設問⑮（【図 7】）が 10.3%（韓国人：17.5%、中国人 JSL：25%、朝鮮族&中国人 JFL：0%）、設問⑯（【図 8】）が 10.9%（韓国人：25%、朝鮮族：20%、中国人 JSL：10%、中国人 JFL：2.7%）とかなり低い。

シテイルの選択率が低かった理由としてまず考えられるのが母語干渉である。詳しく考察してみると、1)中国語と朝鮮語に訳した場合、両言語とも完了・完成のマーカである「了」、「ㄷ」で表現する、2)「変化動詞+シテイル」(例えば、「死んでいる」「ついている」)は習得が難しい、3)朝鮮語では将来の事柄は「ㄹ」で表すため、「死ぬだろう」「つくはずだ」が朝鮮語母語話者の解答に集中している、4)ここでもまた既習文型の「もし〜たら」に注目した学習者は「もしあの飛行機に乗っていたら、みんな死ぬかもしれない／死んじゃったかもしれない」と「〜かもしれない」を使っている。

まだ習っていない日本語表現を習得する場合、学習者によってそのストラテジーがさまざまである。例えば、既習項目から推測する人、母語で思考する人、などが挙げられるが、母語に頼っている割合は大きいと思われる。

4. まとめと今後の課題

ここまでシテイル表現の調査結果について考察・分析してきたが、得られた結論の一つは「朝鮮語母語話者は、中国語母語話者より日本語のアスペクトの習得が容易である」という、一見これまで繰り返し指摘されてきた論点となんら変わりのないものである。しかし、本稿は韓国語母語話者、中国語母語話者、そして朝鮮語が母語で中国語が母国語である中国朝鮮族の3者を比較分析することによって、母語の影響についてさらに細かい考察ができたと考える。

一方で、「経験・記録」「完了」「反実仮想」などの教科書であまり取り扱っていない用法に関しては、学習者の母語や学習環境(日本と中国)などとは直接関係がないように思われる。これは前述の結論と矛盾しているようにも思えるが、「母語の影響」という一言で言い表せるような単純なものではないということである。許(2000:78)は「異なった言語体系を持つ学習者の間に、テイルの習得に関し普遍性が見られ、一定の習得順序を示した」としているが、さらなる検証が必要と思われる。

そして、発想の違いなどでどの外国人学習者にも共通して習得が困難な日本語表現に関しては、学習者側の問題(母語の負の転移など)だけでなく、教える側、教材やカリキュラムなどにも原因があるのではないと思われる。教えていない用法や表現は学習レベルが高くなってもなかなか気づかない場合があるので、習得状況が悪い可能性がある。特に、自然習得が困難な表現形式に関しては教師による適切な指導が必要と思われる。

ほかに、正用率が高かった「かたまり」表現に関しては、使用頻度が高いものは丸ごと記憶される可能性が高いので、「かたまり」が生産的な言語能力につながるかどうかについては意見が分かれるところだが、この「かたまり」のストラテジーが習得に与える影響についてはさらに明らかにする必要があると思われる。

考察の結果をまとめると以下のとおりである。

1. 母語(朝鮮語と中国語)の違いは、学習者のシテイルの習得に影響を与える。
2. 「結果状態」用法は母語干渉が起りやすいと指摘されているが、「かたまり」で覚えている表現に限ってはほかの用法よりも正用率が高い。

3. シテイルの習得状況と学習者のレベルは直接的な関係があるとはいいがたい。
4. シテイルの習得が困難な理由として、学習者側の問題、教える側の問題、教材やカリキュラム上の問題などが相互に影響し合っていると思われる。
5. シテイルの習得は学習環境（日本と中国）に多少は左右されているものの、その影響が決定的に大きいとはいいがたい。

本調査では中国朝鮮族のデータの数が少ないなどの問題点も存在する。今後は中国朝鮮族のデータを増やして再度考察・分析したいと考えている。また、できれば大学を1つや2つに限るのではなく、何校かにわたって調査を行い、本稿での考察結果を再確認してみたい。

今後は実際の教育現場でどのような文脈で導入し、どのように練習させたらより効果的なのか、日本語教育のための具体的な指導案を提示することを課題としたい。

注

- 1 内在アスペクトと呼ばれる動詞の意味成分がテンス・アスペクト形態素の習得に、どう影響するかを論じたもの。
- 2 菅谷 2002 : 81
- 3 中国朝鮮族の場合、母語が朝鮮語で、母国語が中国語である学習者に限定して調査を行った。
- 4 砂川 (1986) の用法名称は筆者が短くまとめたものである。
- 5 砂川 (1986 : 30) は、ほかでは「完了」とされている用法の用例が「結果の状態」の用例として提示されている。
- 6 グループ・ジャマシイ (1998) では、「繰り返し」の用例の中に職業を表す「彼は、トラックの運転手をしている」の用例が載っている。
- 7 「動作継続」は理解することも習得することも容易とされているため、本稿の考察対象から除く。
- 8 調査を行ったのは中国東北部に位置する大学2校である。被験者は全員が日本語専攻クラスの3年生である。
- 9 中国語話者は特別な説明がない限り、日本在住 (JSL) と中国国内 (JFL) の中国人学習者を指す。
- 10 本稿では記憶されたひとかたまりの表現を「かたまり」と呼ぶ。「勤めています」のほかに「住んでいます」「持っています」「知っています」「覚えています」などが挙げられるが、一つのかたまり表現として覚え、使用している傾向があると思われる。
- 11 「結婚している」は中国人学習者がかたまりとして覚えていないことを考慮して対象から除く。また、「痩せていた」はテンスが関わっているため、同じく対象から除く。
- 12 中学と高校では英語を勉強していて、大学に進学してから日本語を勉強している。
- 13 中学から日本語を学習してきた被験者5人と大学に入学してから2年間だけ日本語を習った被験者2人である。

参考文献

- 庵功雄・清水佳子 (2003) 『日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—』スリーエーネットワーク
- 小山 悟 (2004) 「日本語のテンス・アスペクトの習得における普遍性と個別性—母語の役割と影響を

- 中心にー』『言語と教育ー日本語を対象としてー』くろしお出版
- 許 夏珮 (1997) 「中・上級台湾日本語学習者による「テイル」の習得に関する横断研究」『日本語教育』95号 pp. 37-48 日本語教育学会
- 許 夏珮 (2000) 「自然発話における日本語学習者による「テイル」の習得研究：OPI データの分析結果から」『日本語教育』104号 pp. 20-29 日本語教育学会
- 工藤真由美 (1982) 「シテイル形式の意味記述」『武蔵大学人文学会雑誌』第13巻第4号武蔵大学人文学会
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 白川博之監修 (2001) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 菅谷奈津絵 (2002) 「第二言語としての日本語のアスペクト習得研究概観ー「動作の持続」と「結果の状態」のテイルを中心にー」『第二言語習得・教育の研究最前線ーあすの日本語教育への道しるべー』日本言語文化学会
- 砂川由里子 (1986) 『日本語文法セルフ・マスターシリーズ2：する・した・している』くろしお出版
- 張 麟声 (2001) 『日本語教育のための誤用分析 中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
- 浜之上幸 (1992) 「現代朝鮮語の「結果相」＝状態パーフェクト——動作パーフェクトと対比を中心にアスペクト的クラス」『朝鮮学報』第142輯
- 藤井 正 (1976) 「『動詞＋テイル』の意味」『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房
- 吉川武時 (1976) 「現代日本語動詞アスペクトの研究」金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房 pp. 155-327
- 李 明華 (2005) 「アスペクト表現の日・中・朝の対照研究ーシテイルを中心にー」早稲田大学大学院修士論文（未公開）